

日本女子サッカーの普及に関する一考察

柿本 麻希（鳴門教育大学大学院）

1. 目的

本研究の目的は、各年代の女子サッカー人口を増やすこと及び「サッカー離れ」を防ぐ手立てを探り、今後の女子サッカーの普及、発展の一助となる基礎資料を提示することである。

2. 方法

1) 文献研究：文献や関連 Web ページを検索・引用し、サッカーの起源、歴史、発展について明らかにし、日本女子サッカーの現状を考察した。

2) 調査研究

① 調査の対象：T 県における各年代の最高学年の者を対象とした。大学生・短期大学生・専門学校生は、「大学生」と表記した。

表 1 回答者の属性と人数

	サッカー継続者	サッカー非継続者
小学生	16	0
中学生	15	4
高校生	37	2
大学生	12	8
一般	15	31
計	95	45

② 調査期間：平成 30 年 5 月～9 月

③ 調査の方法：集合法による質問紙調査（サッカー継続者）、電話調査（サッカー非継続者）

④ 調査の内容：調査の内容は以下の通りである。

表 2 調査の内容

サッカー継続者	サッカー非継続者
①サッカーを始めた年齢及び離脱経験	
②サッカーを始めたきっかけ	
③所属チームについて	③サッカーを再開する意思について
④男子とサッカーをすることに 対するやりづらさの有無	
⑤練習について	
⑥指導者について	
⑦サッカーの継続理由及び 今後の継続意思について	

3. 結果と考察

1) 文献研究の結果、女性が男性と変わらずにサッカーを楽しめるようになったのは、1970 年代になってからのことであり、女子サッカーの歴史は長

くないことを明示した。

2011 年の FIFA 女子ワールドカップにおいて、日本女子代表が初優勝を果たしたことで、女子サッカーが日本中に知れ渡り、女子選手数は増加しているが、JFA の調査¹⁾によると、小学 6 年生から中学 1 年生、高校 3 年生から大学 1 年生にかけて女子選手数が激減していることを明示した。

2) 調査研究の結果、10 歳までにサッカーを始めている者が全体（140 名）の 79.3% を占めており、多く者が小学生の時にサッカーを始めていることが分かった。また、サッカーを始めたきっかけは、「兄がサッカーをしていたから」が多く、兄・弟・姉・父を「家族がサッカーをしていたから」にまとめると、過半数を占めていた。

離脱時期は、「中学 1 年生」が多く、中学校・高校・大学進学時に「サッカー離れ」を起こしている者が多いことが分かった。その理由として、「女子サッカーチームが無かった」が最も多く、女子サッカーチーム不足による離脱がうかがえた。

4. 結論

本研究の結果、JFA が指摘する年齢別女子選手人口が急減する時期と回答者がサッカーを離脱する時期が重なっていることが分かった。女子サッカーが今後さらに普及・発展していくために、「1 時間未満で通えるエリアに散在する女子クラブの増設」、「指導者と審判員の育成」、「情報の発信方法の見直し」の三つを提案する。

5. 引用文献

1) 公益財団法人日本サッカー協会 Web ページ、
http://www.jfa.jp/women/nadeshiko_vision/master_plan.html